

経営工学専攻の教育ポリシー

【修士課程】

人材養成の目的

経営工学専攻では、経営(マネジメント)活動における価値創造のプロセスを、科学的視点から数理的、工学的あるいは人文社会的アプローチにより解決できる幅広い専門知識を持つ人材を養成します。そのために、人間の活動を含む複雑な経営活動を理解する力、自ら問題を発見する力、問題を深く理解し研究する力、問題に応じた適切な解決方法を探す力、問題に挑戦し解決する力、高いコミュニケーション力を持ち、そして人間性尊重の精神と技術者倫理を合わせ持った人材を育成します。

入学者に求める能力と適性

本専攻では、次のような資質と能力を持つ人材を求めます。

- ・ 人文社会学、理学および工学の十分な基礎学力と論理的な思考力
- ・ 経営工学およびその周辺の分野について十分な専門的学力を有すること
- ・ 自ら問題を発見する洞察力とその解決に適切な方法を探すことのできる力
- ・ 論理的思考力と柔軟な発想力
- ・ 社会に存在する問題に挑戦し積極的に学ぶ意欲と最後までやり抜く敢闘精神
- ・ 問題を解決し、マネジメントできる力
- ・ 問題解決を通じてグローバルに社会に貢献する志
- ・ 人間性尊重の考え方と技術者倫理

入学者の選抜方針

上記の資質と能力をもつ人材を選抜するために、本専攻では、英語外部テストのスコアによる語学力評価に加え、基礎数学・論述および専門科目からなる筆答試験、および研究能力並びに適性に関する口頭試問を実施します。また、学部3年次までの成績、英語外部スコア、および口述試験による選抜も実施します。

修得する能力

本専攻では、次のような能力等を習得します。

- ・ 経営活動を構成する諸活動を包括的に理解するための知識と経営的視点
- ・ 社会に対する洞察力を高め、解決するに値する問題を発見する能力、問題を解析する能力、問題を解決する能力およびそれを実行する能力
- ・ 問題を構造化・モデル化する概念的な能力
- ・ 科学論、技術論、科学方法論の専門知識に基づく洞察力

- ・ 日本語および英語による説明能力と文書化能力
- ・ 先端的研究を遂行する創造力

教育内容

本専攻では、上記の能力を身につけるため、次のような学習内容を設ける。

A) 経営活動を構成する諸活動を理解するための知識と経営的視点

経営活動およびその背景となる経済社会を理解するための経営学の諸分野と、経営の現場を支える経営工学の諸分野について、学部で学んだ経営工学専門基礎分野をさらに深く掘り下げ、基礎学力を盤石なものにする。また、科学史・技術史・科学方法論や知的財産などの科目を履修することで、知識の幅を広げるとともに、高い視点から問題を俯瞰する力を身につける。さらに、経営的視点を養うために、企業経営者の経験や事業計画立案などについて実践的に学ぶ。

B) 社会に対する洞察力を高め、解決するに値する問題を発見する能力、問題を解析する能力、問題を解決する能力およびそれを実行する能力

経営(マネジメント)活動に存在する諸問題を深く理解し、それらの本質を見抜く力を習得する。また演習や修士論文研究を通じて現実の問題に取り組み、それをいかに継続可能な形で社会に実装するかを考える力を身につける。修士論文研究では自ら課題を探し、それに取り組むことで問題解決をやり抜く底力を養う。

C) 問題を構造化・モデル化する概念的能力

問題を構造化して解決するためのアプローチについて、先端的な理論を学ぶとともに観察、モデル化、実験などの演習やグループワークなどの創造的教育を通じて実践力を習得する。

D) 日本語および英語による説明能力と文書化能力

少人数のゼミナール形式やグループワークで仲間と協力することを通して、自分の考えを理論的に表現し、他人の考えを理解し、尊重し、コミュニケーションをとりながら、一緒に問題に取り組む姿勢を養う。特に、多国籍で分野横断型のグループワークの機会を通じて国籍や専門分野の壁を超えるコミュニケーション能力を身につける。さらに、修士論文研究を通じて、自らの仕事を効果的に表現する力も身につける。

E) 先端的研究を遂行する創造力

修士論文研究への取り組みを通じて、問題発見と問題解決の実践力を向上させる。また、特別演習やコロキウム等を通じて、国際学術雑誌の論文を読み込むことで最新の研究動向を意識する姿勢を獲得する。

学位の授与方針

(学習案内参照)

【博士課程】

人材養成の目的

経営工学専攻では、経営(マネジメント)活動における価値創造のプロセスを、科学的視点から数理的、工学的あるいは人文社会的アプローチにより研究・創造できる、世界をリードする研究者および実務者を養成します。そのために、人間の活動を含む複雑な経営活動を理解し、自ら問題を発見・研究し、問題に果敢に挑戦・解決できる能力を持つ人材を育成します。

入学者に求める資質と能力

本専攻では、次のような資質と能力を持つ人材を求めます。

- ・ 経営活動を構成する諸活動を包括的に理解するための十分な知識と経営的視点
- ・ 社会に対する高い洞察力、解決すべき問題を発見する能力、問題を解析する能力、問題を解決する能力およびそれを実行する能力
- ・ 問題を構造化・モデル化する概念的能力
- ・ 日本語および英語による説明能力と文書化能力
- ・ 研究を遂行する能力
- ・ 問題解決を通じてグローバルに社会に貢献する志
- ・ 人間性尊重の考え方と技術者倫理

入学者の選抜方針

上記の資質と能力をもつ人材を選抜するために、本専攻では、英語外部テストのスコアによる語学力評価に加え、研究能力並びに適性に関する口頭試問を実施します。

修得する能力

本専攻では、次のような能力等を習得します。

- ・ 高度な専門知識に基づく経営活動を構成する諸活動についての洞察力
- ・ 解決すべき問題を発見し、社会に役立つ解決策を見出し、それを実践していく実行力
- ・ 問題を構造化・モデル化して説明する能力
- ・ 日本語および英語による論文作成能力と発表能力
- ・ 最先端の研究を遂行する高度な創造力
- ・ 国際水準で通用するリーダーシップ

教育内容

本専攻では、上記の能力を身につけるため、次のような学習内容を設ける。

- A) 高度な専門知識に基づく経営活動を構成する諸活動についての洞察力

経営(マネジメント)活動およびその背景となる経済社会を理解するための経営学の諸分野と、経営の現場を支える経営工学の諸分野について高度の専門知識を習得し、経営活動や問題の所在についての深い洞察力を養う。

- B) 解決すべき問題を発見し、社会に役立つ解決策を見出し、それを実践していく実行力

研究を通じて経営(マネジメント)活動の諸相に存在する問題を深く理解し、それらの本質を見抜くとともに解決のための効果的なアプローチを見出し、継続可能な形で社会に実装する実力を身につける。博士論文に向けて自ら探した課題に継続して取り組むことで問題解決をやり抜く底力を養う。

- C) 問題を構造化・モデル化して説明する能力

問題の本質を捉えて構造化するための諸技法について先端的な理論を自ら学ぶとともに研究を通じて実践力を高める。

- D) 日本語および英語による論文作成能力と発表能力

論文執筆や学会発表を通じて自らの仕事を効果的に表現し発表するとともに他の研究者と議論する力を身につける。

- E) 最先端の研究を遂行する高度な創造力

文献など国際的な情報を掌握し最新の研究動向を意識する姿勢を獲得するとともに、世界的な競争力を持つ最先端の研究を自ら創り出す高度な能力を養う

- F) リーダーシップ

問題解決や研究において国際水準で通用するリーダーとなるために、上にあげた実践的能力に加え、未来を見通す視点、仲間とコミュニケーションしともに働く力、そして自ら問題に挑戦し続ける強い意志を養う。

学位の授与方針

(学習案内参照)